

医療倫理・医療安全論

13. 賢い患者になるには

7階第5研究室

江原朗

パターナリズムと インフォームドコンセント

- パターナリズム：
 - 強い立場にある者が、弱い立場にある者の利益になるようにと、本人の意志に反して行動に介入・干渉すること
- インフォームドコンセント
 - 医師の適切な説明により、十分な理解をした患者から自発的な承諾がないと治療行為をできない。

インフォームドコンセントの 2つの要素

- 承認原則(consent)
 - 医療行為をする際に患者の承認が必要
- 説明原則(inform)
 - 承認を対象となる医療行為について十分な説明をしなければならない。

承認原則

- 肉体への侵襲行為は患者の承諾が必要
- 承認の法的役割：医的侵襲の違法性棄却
 - 患者の承諾なければ、不法行為や債務不履行
- 承諾原則の目的
 - 自己決定権の保護
 - （患者の自己決定権と身体の一部性を保護）

説明原則

- 説明原則の役割と問題点
 - 承諾の前提として十分な説明する必要
- （この際の問題点）
 - どのようなことをどこまで話すか。
 - 説明と承諾はどのような法的関係にあるのか。

患者・医師間の医療情報格差

- 医師・看護師：医学知識は患者よりも勝る
- 患者：自身の病状に関しては医療者よりも知っている。

ヘルスコミュニケーション

- 医療関係者－患者関係
- 個人が健康情報に触れたり探したり活用
- 臨症的な助言や養生法に従う時
- 公衆衛生上のメッセージやキャンペーン
- リスクコミュニケーション
- マスメディアや文化全体の健康像構築
- 公衆衛生や医療システム利用の教育
- 電子健康媒体(テレヘルス)活用の開発

患者・医師の関係 (COML)

- 伝えたいことはメモして準備
- 対話の始まりはあいさつから
- よりよい関係づくりはあなたにも責任が
- 自覚症状と病歴はあなたの伝える大切な情報
- これからの見通しを聞きましょう
- その後の変化も伝える努力を
- 大事なことはメモをとって確認を
- 納得できなときは何度も質問を
- 医療にも不確実なことや限界がある
- 治療方法を決めるのはあなたです

医療の不確実性

- 医学が進歩しても、100%確実な診断や治療、経過予想はあり得ない
- 患者さんの個人差も大きいので、結果がどうなるかは正確に予測できない。
- 医師による見解の差もある。
- 正解が一つに決まらない中で、最善の道を探るには、医療を受けないことを含めた複数の選択肢から患者さん自身が選ぶしかない

防衛医療(1)

- 医療過誤の賠償責任や刑事責任追及等にさらされる危険を減ずるため、
 - 医療側の対応として行う医療行為
 - リスクの高い患者の診療の忌避。

防衛医療(2): 例

- 主訴に対する処置のみを行う。
- 大きな合併症が起きる可能性のある処置・手術を行わない。
- 小児は診ない。
- 分娩を行わない。
- 出産時、帝王切開を行う。
- リスクの高い患者を受け入れない。リスクの高そうな救急搬送は受け入れ拒否する。特に助産院からの搬送は受けない。
- 態度が悪い患者、そのような人が身内にいるなどがある場合、その旨をカルテに記載しておく。

医療：患者と医療者で作る

- 医師・患者の良い信頼関係：双方の共同作業
- あいまいな訴え、要領が悪さ：医師は嫌がる。
 - どういう風にしてほしいのか、自分で自分の考えをまとめておく。
 - 治療を受ける側も勉強する。
- 医師・患者関係：良好でない時も
 - 説明に納得不能：セカンドオピニオン。